

肥料コスト低減体系緊急転換事業 取組状況

(令和5年2月28日現在)

1. 取組者

さがみ農協藤沢市露地野菜部会

2. 取組内容

土壌診断による施肥設計を活用した堆肥の導入による肥料コスト低減対策

3. 取組概要

部会員が土壌診断分析装置を導入し、露地野菜の各品目の作付け毎に土壌診断を行い、年間を通じて施肥設計をした上で、堆肥（汚泥発酵肥料）を施用し、化成肥料の減肥等、肥料コスト低減に資する技術の向上を目指す。

年間約15種類の作付けを目標とし、実証結果について露地野菜部に周知し、情報共有する。

4. 取組結果

取組の結果は、以下のとおり。耕作放棄地1区画を除く10区画の合計では、化成肥料の施肥量が県の施肥基準と比較し約27%減少し、2割減を超える減少率を達成した。

対象圃場	施肥量 (KG / 10a ²)			削減率 (%)	
	神奈川県 施肥基準	施肥基準から 化成2割減	施肥実績	施肥基準から の削減率	2割減から の削減率
全体(11区画)	63.2	52.1	72.1	▲14.0	▲38.3
耕作放棄地を 除く10区画	64.8	53.2	47.2	27.1	11.2

※ 作付品目により標準的な施肥量が異なるため、以下のように計算し、各品目の平均的な10a施肥量を算出し、比較した。

(各区画(品目)の10aあたり施肥量の合計) ÷ (区画数)

5. 今後の取組方針

耕作放棄地で多くの施肥量を要したことから、作付地全体では施肥基準を上回る結果となったが、引き続き土壌診断に基づく施肥設計に準じた施肥を行うことで、化成肥料の使用量の低減を図っていく。